



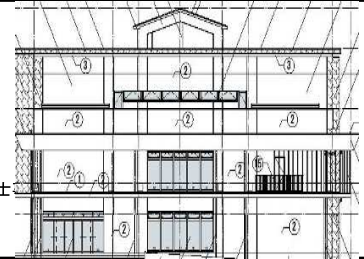
欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	蒲原小中一貫校 校舎建設工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.1	/5		ふつつ	
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.9	/5		がんばろう	
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.1	/5		ふつつ	
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.3	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)		3.1		
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) (※下記記載例は削除し今回計画の環境配慮概要を自由記述) ①ダブルスキンの採用による開口部の温熱環境の向上。 ②ライトシェルフの採用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するよう外構植栽計画を行った。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦ダブルスキンによる高断熱化。 ⑧自然通風、ライトシェルフによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪雨水利用設備の導入による雨水の有効利用。 ⑫地下躯体部分における高炉セメントの採用。 ⑬不活性ガス(CO2)消火設備の導入。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭省エネルギー対策と、高炉セメントの採用。 ⑮外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)		2.9	
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯制振装置の採用。</p> <p>■しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)</p> <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲街並みに配慮し、木材等自然素材を活用した外装とした。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰ Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑲	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備 ⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
		“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)		2.3
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上) ⑲敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑳緑地の緑が連続するよう外構植栽計画を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/㉑温熱環境悪化の改善) ⑲静岡県産材の使用比率が0%。 ㉑外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	Q-3 1 ⑲ 2 ⑲ 3 3.2 ⑲ LR-2 2 2.5 ⑲ LR-3 2 2.2 ⑲	⑲ 生物環境の保全と創出 ⑲ まちなみ・景観への配慮 ⑲ 敷地内温熱環境の向上 ⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 温熱環境悪化の改善		

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	蒲原小中一貫校 校舎建設工事	階数	地上3F
建設地	静岡県清水区蒲原46-4の一部,135	構造	RC造
用途地域	市街化地域、防火地域指定なし	平均居住人員	289 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年12月 予定	評価の実施日	2024年2月27日
敷地面積	39,188 m ²	作成者	株式会社ニュージェック 一級建築士
建築面積	2,899 m ²	確認日	
延床面積	7,219 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	77%
③上記+②以外の	77%
④上記+	77%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

音環境	2.1
温熱環境	3.0
光・視環境	2.6
空気質環境	2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

機能性	2.7
耐用性	2.7
対応性	2.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 1.8

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性*	2.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.4

水資源	2.2
非再生材料の	2.4
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

地球温暖化	3.9
地域環境	2.8
周辺環境	2.8

3 設計上の配慮事項

総合	その他
これはCASBEE静岡 (2021年版) による評価結果です。 建物全体の一次エネルギー消費量が省エネ基準を満たすようにし、CO ₂ 排出量の低減に努めた。	
Q1 室内環境 F☆☆☆☆の建材を使用し、環境配慮に努めた。	Q2 サービス性能 設備配管の主要な用途上位3種のうち2種類を耐用年数の長い性能のものにし、設備の耐久性向上に努めた。
Q3 室外環境 (敷地内) 特になし。	
LR1 エネルギー BEI=1.0以下を予定しており、環境に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 特になし。
	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出量を抑制し、地球温暖化への配慮を行った。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される